

目指せ！

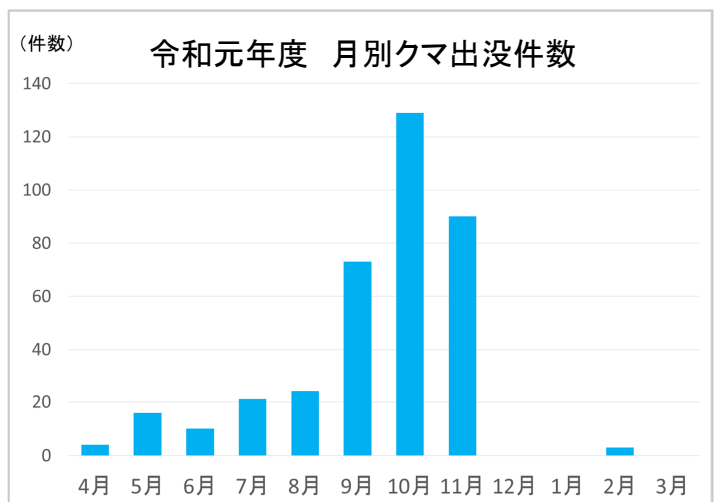
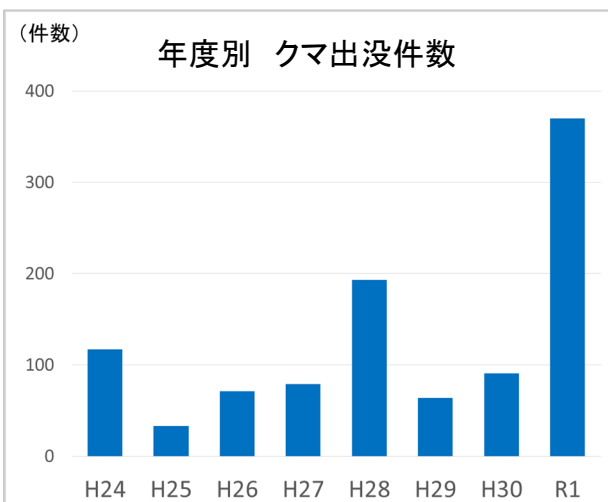
クマが来ない地域



県内のツキノワグマ（以下、クマ）は、生息数が非常に少なく、県の絶滅危惧種に指定されている一方、一度、人里への出没があると人身被害が懸念されます。

このような背景から県では、住民の安全確保を最優先にしつつ、クマを可能な限り保護する方針で対応しています。

< 神奈川県のクマ出没状況 >



1 年によって人里出没件数が増減する

人里への出没件数は、秋（9～11月）が多く、年によって増減を繰り返しながら推移します。ドングリ等の山の実りが悪い年は、餌を求めてクマが人里周辺に出没しやすくなると言われていています。特にハチミツは、クマの大好物であり注意が必要です。

2 捕獲だけでは被害を防げない？

クマには明確な縄張りがなく、複数の個体が行動圏を大幅に重複させています。多くの場合、人里に執着した個体を捕獲しても、執着物となっている物への対策がなされない限り、周辺の別の個体が再び加害するだけで、一時的な対策にしかなりません。

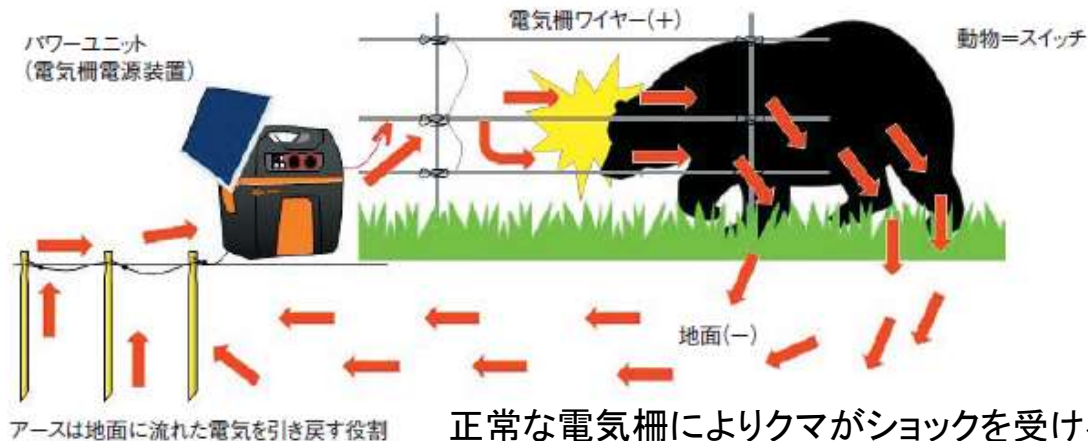
3 人里で美味しいエサがあることを覚えさせないことが重要！！

クマ被害を防ぐためには、人里でハチミツ等の味を覚えさせないことが何より重要です。そのため、養蜂場や果樹園を電気柵で囲い、1頭たりとも侵入させない対策が必要です。正しく設置された電気柵は、クマの侵入を防ぐ効果があります。

お願い！

クマの出没が確認されている地域では、養蜂場等への電気柵の設置をお願いします！！

地域の安全を守るため、養蜂場や果樹園の被害を防ぐため、クマと人間の生活圏の住み分けを図るため、**電気柵設置による被害防除を実施してください！**



正常な電気柵によりクマがショックを受けるしくみ

出典：ツキノワグマによる養蜂被害防除（一般社団法人日本養蜂協会）

（原図：サージミヤワキ(株)神武海氏提供）

＜設置上の注意点＞

電気柵は、有効な防除手段ですが、誤った設置方法が目立ち、被害発生につながっています。特に以下の点にお気をつけください。

1 電圧のチェックをしましょう

最低でも**4,000V**の電圧が望ましいです。電源が設置距離に合っていないなかったり、電線のどこかで雑草や金属製のポール等が近接、触れて漏電し、電圧が低下することがあります。

2 アース設置の不備

アースの差し込み等が不十分であったり、差し込み場所が乾燥しているとショックが弱まってしまいます。

3 周辺環境整備

電気柵を設置するだけでなく、周辺のヤブの刈り払い、誘引物（廃果、生ごみ等）の適切な処理などとセットで行うことが効果的です。

※各機関からの電気柵の貸出

万一、緊急の対応で電気柵が用意できない場合、一時的ですが、市町村や県から電気柵を貸し出せる場合があります。管轄の関係機関にお問い合わせください。

問合せ先：自然環境保全課野生生物グループ
045-210-4319